

週報宇佐



RI会長
田中 作次



第2720地区ガバナー
岡村 泰岳



宇佐ロータリークラブ会長
石部 幸二



陵王面



孔雀文馨

- 例会日 木曜日 PM12:30
- 例会場 宇佐市沖須町 1-19
トキハインダストリー長洲店 2F
TEL (0978) 38-1112

会長 石部 幸二
幹事 臼杵 確
編集 川端 克弥

本日のプログラム (7月19日)

1. 会長の時間
2. 幹事報告
3. 委員会報告
4. スマイルカード
5. 内部卓話 五大奉仕委員長年度方針
6. 出席報告

7月の行事予定

- 5日 石部幸二会長・臼杵 確幹事年度方針
- 12日 外部卓話 富田江里子氏
(フィリピン スービック地域 慈善団体CFP)
- 19日 五大奉仕委員長年度方針
- 26日 内部卓話 和田久継会員

第2213回例会 平成24年 7月12日 の記録

開会点鐘

- ♪ ソング 我等の生業
- ♪ ゲスト 富田江里子氏 (フィリピン スービック地域 慈善団体CFP)
- ♪ ビジター なし

● 会長の時間

石部幸二会長

本日は富田江里子様をフィリピンよりお迎えして、卓話をさせていただきます。

先般よりお話していますように富田さんは2000年よりフィリピンで無料の産院を開設しておられ、今やその地域にはなくてはならない人物です。日本人として誇りに思うと同時に何か支援できることがあるのではないかとの思いで、今回のM・Gを申請しました。

フィリピンの貧困層の現状を富田さんの生の声で聞けることが今後の我々の国際奉仕につながると思います。

● 幹事報告

臼杵 確幹事

1. 来信
1)ガバナー事務所より「会員数アンケート」「超我の奉仕賞について」
2. 例会変更
中津中央RC：7/30(月)の例会は、18:30～「グランプラザ中津ホテル」に変更
3. 週報受理 なし
4. 理事会報告 なし
5. お知らせ
1)本日19時より「翔山」にて、有志による富田さん

USA-OITA

第2720地区 宇佐ロータリークラブ

事務局

〒872-0032 大分県宇佐市江須賀2999-2 (株)ユニックス内

TEL. FAX : 0978-38-2370 <http://www.usa-rotary.com/>

との懇親会を開催致します。

2)7月17日(火)19時より「ちよせ」にて、末宗前会長の慰労会と宮丸会員・宮本会員の歓迎会を開催致します。

3)次週例会終了後、定例理事会を開催致します。

6. 欠席連絡

住本憲彦会員、宮丸龍昭会員、宮本順二会員
和田久継会員

7. 本日の当番

廣瀬辰彦会員、藤久保茂己会員

● スマイルカード 西中孝生委員長

石部幸二会長：富田江里子様ようこそ宇佐RCへいらっしゃいました。卓話よろしくお願いします。

臼杵 確幹事：富田さんようこそ。お話を楽しみにしています。

藤本博和会員：富田江里子さんはるばるいらしていただきありがとうございます。

佐藤憲三郎会員：①富田さん宇佐RCへようそこおいで下さいました。貴重なお話しありがとうございます。②藤林会長年度のクラブ小誌ができました。皆さま方のご協力大変ありがとうございました。特に津々良会員と事務局秋野さんに大変お世話になりました。

津々良洋一会員：富田江里子様当クラブへようこそいらっしゃいました。

藤久保茂己会員：本日の富田さんの卓話、講演楽しみにしています。よろしくお願いします。

末宗為十会員：富田江里子さんようこそ。卓話楽しみにしています。よろしく。②皆勤賞ありがとうございました。

藤林鋭司会員：富田江里子様ようこそ。本日はよろしくお願い致します。

河村正一会員：入会以来21回目のアテンダンス章をいただきました。

本庄伸子会員：富田さん今日はよろしくお願いします。

砂山正則会員：職業奉仕の為早退致します。

岩井謙次会員：職業奉仕の為早退致します。

😊ニコニコ累計 52,500円

● 出席報告

佐々木正博委員長

第2213回 (7月12日)

会員総数	33名
(内出席免除)	0名
出席数	26名
(内事前MU)	1名
欠席数	7名
出席率	78.79%

□事前メイクアップ

佐々木正博会員 (中津RC)

□欠席者

小野田義文会員、新開洋一会員、住本憲彦会員
西中孝生会員、宮丸龍昭会員、宮本順二会員
和田久継会員

● 外部卓話

「フィリピンの診療所から」

富田 江里子 氏

(フィリピン スービック地域 慈善団体CFP)



生年月日:昭和42年2月13日

現住所:フィリピン、サンバレス州、スービック、マンガンバカ、マンガハン
再定住地

St. Barnabas Maternity Center

略歴:

看護師・助産師の資格を得て、4年間の病院勤務後、協力隊に参加。(H5-7)

モルジブ共和国の地方病院で病院師長兼産科医師の業務を行う、帰国後1年は日本での研修、病院勤務。

平成9年より、フィリピンサンバレス州に夫の仕事に付き添い移住。(夫はピナツボ火山噴火後の植林、農業指導など)

主婦業の傍ら、貧困の患者と関わりフィリピンの貧困層のお産の現状を知り、平成12年 St.Barnabas Maternity Center を個人で立ち上げ現在に至る

2004年より医学書院 助産雑誌「ぶつぶつ通信」連載中 他医学雑誌に掲載多数

2007年1月28日 TBS「情熱大陸」にて取り上げられる。

2007年10月17日 ニューズウィーク日本版 世界が尊敬する日本人100人に選ばれる。

2011年8月 テレビ東京 日曜ビッグバラエティー「世界で頑張る日本人」で紹介される。



フィリピン、貧しい母子のための診療所
St. BARNABAS MATERNITY CENTER



～ご支援をお願いします～

「フィリピン、貧しい母子のための診療所」は皆さまのご支援で運営しています。

医療費が高額なフィリピンでは、中流以上の生活をしている人びとでも病気になる医療費に追い詰められて、ついに一般の薬すら買えないほどの貧困に陥ることがあります。苦しんでいる家族を助けるために、最後には家や土地までを売り払い、ついに病院通いをするためのお金が尽きて、フィリピンの医療から見放されるのです。この診療所にやってくる患者の多くは、そんな経験をした人々です。

フィリピンの公立病院では、産婦の苦しみを癒すことよりも、効率や経済性が優先されます。そのため慢性的な人手や予算不足により未熟な医師や学生にずさんな処置をされて、深いトラウマや後遺症を残す産婦や、時には母子の命を落とすこともあります。昔ながらの産婆による自宅出産も迷信や間違った知識でお産の介助をするため、実は病院よりも危険であるという事実がありました。この診療所は24時間 365 日体制で、行き場を無した貧しい産婦に、より自然なお産介助をしています。

まだまだ助かる命があります。まだまだ患者は増えています。「フィリピン、貧しい母子のための診療所」ではフィリピンの医療とは違うアプローチで患者と向き合っています。高額な医療費も、癒されない手当ても、必要な処置もありません。貧しい人びとでも付き合える医療を模索しています。

富田江里子

～皆さまのご支援をお願いします～

寄付金を受け付けています。

- ★会員になってください。
- ★賛助会員を募集しています。(年会費)

個人→5,000 円 企業→10,000 円

郵便振込口座番号 00980-0-179028

振込宛先 CFP

連絡先 〒669-3153 兵庫県丹波市山南町前川 163

TEL0795-70-8270

http://www.geocities.jp/erikoclinic/

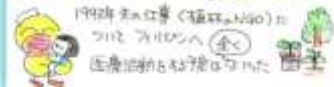
富田江里子のブログ

http://blogs.yahoo.co.jp/barnabaseriko

富田江里子の E-mail アドレス

erikobarnabas@hotmail.com

アザニック、こうして始まった



皆さまのおかげで 12 周年！ 貧しい母子のための診療所はパワーアップして活動中です！

ここフィリピンでは貧しいからと病院へ行けない、薬が買えない、どうしたら良いのか分らない、道方に頼っている患者がたくさんいます。お産は早くから気張らせる、お腹を押すと云う間違った介助方法により亡くなる児も、適切な処置が受けられず死んでいく母親もいます。どんな貧しい母子のために、日々、診療とお産介助を行っています。全ての人は幸せに育つために生まれてくる、そう信じています。



診療所ではこんなことをしています！

1. 自然なお産経過を見守り、母子の健康・母子の絆の確立支援を行っています。
2. 母乳育児支援・家族計画支援により、家族の健康を促進しています。
3. 診療は無料、あらゆる病気・貧困で行き場のない患者のケアを行っています。
4. 貧しくて診療所まで来られない患者のため、移動診療をしています。
5. 様々な理由で栄養失調になった母子に食事支援をしています。
6. 手術が必要な貧しい子供のために奔走しています。

診療・お産介助やっています！

貧しい患者や妊婦を対象に、無料診療を行っています。妊婦健診やお産だけでなく、風邪や腹痛、心臓病、股や皮膚病、様々な生活習慣病・癌やエイズなど、急性期から末期までの様々な患者のケアをしています。これまでに5万5千人を超える患者と向き合い、2232人の赤ちゃんの誕生に立ち会ってきました。貧困では十分な医療の恩恵に与れません。病気を我慢する以前に病気になるようにすることが大切と、疾患予防教育も力を入れています。現代医療だけがすべてで無いと、現地でも安く入手できる漢方薬の活用・マッサージや薬草・手当など、誰もが実践できるケアを提案・提供しています。移動診療・産後訪問など交通費のねん出が困難な患者のための巡回診療も行っています。



食事支援・栄養補助やっています！

貧しさ故に産後から母親が仕事に出なければ、家政婦が生きていけないほど切迫した家庭も稀ではありません。産後直ぐの母親が無理をすると出血は止まらず、貧血は進む母乳も出ないと母子双方の生命に危機が及びます。このような家庭にお米などの支援を行っています。母体を回復させて母乳育児ができる状態まで支援することで、母子の命を守ります。また、迷信や間違った病気の治療方法として医師に母乳を禁止されたが、市販ミルクを購入して医師に母乳を禁止されたが、市販ミルクを摂取できない貧困家庭、ネグレクトや下痢・病気の重症で極度の栄養失調に陥っている乳児・幼児を対象にミルク・離乳食支援を行っています。これまでに 60 人以上の母子が生命の危機を脱し、回復しています。



手術が必要な命、応援します！

先天性奇形などで手術が受けられなければならない小さな命があります。しかし医療費が日本より高額なフィリピンでは、手術や検査費用も莫大で、貧しい患者の手が届くものではありません。そこで診療所では、広報をして支援を呼び掛けたり、手術の実現に向けて奔走しています。全ての人は貧富の差に関係なく幸せになれると信じて、支援者を募り、日々情報を集めています。現在はアロー四散症のレチエリンちゃん9歳の日本の手術実現のため、奔走中です。総算で 600 万円の予算が必要ですが、早期の手術が望ましく、1 年以降は手術不適用になる可能性があると言われ、医師が助言しています。レチエリンちゃんの映像をご覧ください。

(http://mobacha.net/vj/japan.html)



設立経緯

助産師 富田江里子が2000年から「セントパルナバマタニティーセンター」を運営。お産現場から、若年出産や多産、望まれない出産の根本原因は深く考えず、流される貧困の人々の生き方と気付く。妊娠してからでは遅すぎると思春期以前の子供への関わりを始めたのがきっかけ。日本人訪問者が多数賛同し、2008年5月に設立されました。
富田江里子ブログ：
<http://blogs.yahoo.co.jp/barnabaseriko>
URL：<http://www.geocities.jp/erikoclinic/>



WISH HOUSE ブログ：
http://blogs.yahoo.co.jp/k_uran1125
URL：
http://www.geocities.jp/k_uran1125/

～皆さまのご支援をお願いします～

寄付金を受け付けています。

郵便振込口座番号
00960-8-321736
振込宛先
NPO 法人 GFNP
(振込用紙に WISH HOUSE 寄付とお書きください。)

連絡先
◆フェリピン事務所
責任者 倉本陽子 / Yoko Kuranofo
e-mail: k_uran1125@yahoo.co.jp
TEL (+63)-927-676-3441 (フェリピン現地直通)
Manggahan Resettlement, Mangnan-vaca, Subic, Zambales, Philippines
◆日本事務所
〒669-3153 兵庫県丹波市山南町藤川 163
TEL 0795-70-8270

訪問滞在ボランティア募集!

活動内容: WISH HOUSE 授業/青空教室など
滞在場所: WISH HOUSE「希望に満ちる家」
滞在期間: 1週間以上

◆活動内容

☆WISH HOUSE での授業、補習授業、子供と遊ぶ!
(幼児教育、読み書き計算、調理、縫製、ビジュアルなど)
☆周辺村への訪問授業(青空教室、川遊び、山遊びなど)
子供たちと関われば関わるほど、彼らの心は開き、自信や将来の希望に繋がります!



皆さまのおかげで5周年! WISH HOUSE「希望に満ちる家」はパワーアップして活動中です!

この国には貧困ゆえに児童労働や売春などに入って行く子供たちがいます。学校に行きたくても通学費がない、親に虐待されるなど、義務教育を断念した子供たちが抱える問題は様々です。そんな不就学児童らを見つけて出して「小学校じゃないけど学習できる場所があるよ!」「いろんな楽しい経験ができるよ!」と声をかけています。ここ WISH HOUSE は貧困になんか負けない強い心を持った子供たちが育つ学び舎です!



WISH HOUSE ではこんなことをしています!

1. 義務教育を断念した不就学の子供たちに学びの機会を提供しています。
2. 様々な学年の子供たちに補習を行っています。
3. 虐待を受けている子供たちの逃げ場所として、常に扉を開いています。
4. 職業を得るための経験を積む場所としています。
5. 様々な地域へ赴き、多くの子供たちと遊び学習を提供しています。
6. 訪問者を受け入れ、子供たちと関わり影響を与えています。

特別な授業・補習やってます!

貧困ゆえに義務教育である小中学校への通学を断念せざるを得ない子供たちがいます。日常的なネグレクトや虐待、児童労働に疲れ、十分な知識もないままに裏社会や売春の世界に入っていきます。そんな不就学の子供たちを対象に、生きていくための知恵をつける学習(自己主張できる言語や読めない算数)、職業を得るための様々な経験ができる機会を無償で提供しています。

WISH HOUSE は学校ではありません。学習塾でも児童館でもありません。これまでの生い立ちの中で子供として扱われなかった、子供らしく振舞うことが許されなかった、常に虐げられてきた、そんな心に傷を持つ子供たちが、貧困に負けない強い大人に成長するためのラストチャンスなのです。



食事支援の給食やってます!

子供たちが児童労働をする背景には、常に「空腹」があります。せっかく WISH HOUSE に来たのに、朝食を食べていないからと、昼前には胃袋めや水汲みの労働をするために帰ってしまう子供が少なくありませんでした。子供にとって食べることは学習することより重大なことです。そこで子供たちを児童労働を強いる環境や、虐待をする大人から離れるために、2011年度より給食を実施しています。今ではこの給食を目当てに通学してくる子供もいますが、それで良いのです。子供が子供らしく学習できる場所に来る理由が、「お昼ご飯が食べられるから...」でも、ここに来さえすれば労働することも、虐待されることもありません。ここでは給食を食べることが学習できることでもあるのです。



日本の支援者と応援します!

これまで長期に渡って児童労働に従事したり、虐待を受け続けた子供たちの多くは、限定された人間関係と極端に狭い地域の中で過ごしています。そのため、十分な社交性や協調性を身に付けることができず、表情や感情表現が乏しい無口な子供になります。そんな子供たちに必要なのは、自分を攻撃しない、虐げることがない全く新しい人間関係と、そこから得る様々な知識や情報であると考えています。WISH HOUSE には毎年50~100人の日本人訪問者がやって来ます。彼らとの交流は子供たちにとって新しい価値観を得ることのできる最良の機会となっています。私たちは子供たちに笑顔で差し、手を差し伸べてくれる訪問者を募集しています。詳しくはブログにて。

